

2025(令和7)年度 第6回全国U15バスケットボール選手権大会(京王Jr.ウインターカップ2025-26)

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	2025(令和7)年度 第6回全国U15バスケットボール選手権大会(京王Jr.ウインターカップ2025-26)									
●日程	令和8年1月4日				(日) ~		令和8年1月6日			(火)
●会場	京王アリーナTOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ)									
●講師	加藤 暁生様 東條 輝正様 浅野 慶太郎様 大坪 綾音様 大山 賢史様 岸本 祥也様 野々村 日希様 中江 洋美様 福沢 佳乃子様 砂川 卓嗣様									
●スケジュール	令和7年1月3日(土) 東京へ移動 令和7年1月4日(日)~6日(火) 本大会 (各自担当試合に間に合うように集合・MTG、担当試合終了後、担当IRとMTG後適宜退館) 令和7年1月6日(火) 担当試合・MTG終了後帰阪									
●担当試合	令和8年1月4日 (日) ~ 令和8年1月6日 (火)									
	各自担当試合の時間にあわせて集合(3日間とも9:30第1試合開始)									
	令和8年1月4日 (日) 12:30 ~				女子1回戦			会場:KEIOアリーナ東京		
	対戦カード		岡山市立竜操中学校(岡山県)				VS		れいめい中学校(鹿児島県)	
	主審		CC		石川 淳也		U1		平山 智恵氏(栃木県)	
	講師／主任		青木 太一様(関東ブロック派遣・神奈川県)							
	講評		・接戦のゲームで観客も注目する中、クルーで処置ミスなく無事に終えたことが良かった。TOも中学生が担当する状況も察して、クロック修正も含めてTOへも配慮した対応も良かった。最後まで丁寧に判定を積み重ね、プレイヤーの技術で決着をつけることができたと感じる。 クルーワークも良く、それが判定にも結びついており、ゲーム全体も大きな問題・トラブルなく、ゲームを無事に終了できたと感じる。 ・概ねプライマリレフェリーがコールをしていたので、1試合通して判定に大きな問題はなかったように感じる。 ・接戦のゲームのわりにスムーズに進む中で、4Q130のタイムアウト明けに個人ファールの回数が合わないとのことで、TO・両チームに確認をしたが、時間がかかりすぎたところがあった。もう少しスムーズに対応進めた方が良かったと感じる。							
	自己の感想		・両チームともここ数年全中に出場していて実力のあるチーム同士で、予想通り接戦のゲームとなった。クルーの協力で全体的にはチーム・TO・クロック管理も含めて大きなトラブルもなく、ゲームを無事に終えられたと感じている。 ・1ゲームを通じて、クルーで頻繁にコミュニケーションをとり、メカニクスでも大きな崩れもなく、そのことがプライマリからの良い判定に結びついて、ゲームコントロールにつながったと感じている。 ・ゲームのクロージングには課題が残った。上記のタイムアウト明けで最初は別のクルーがTOの対応をしていたが、CCとしてももう少し早くTOへの対応を進めた方が良かったことと同時に個人ファールの回数をクルーとして把握しておくべきだった。個人ファールの回数の把握を改めて痛感した。今後クルーとして実践していきたい。							

●担当試合	令和8年1月5日 (月) 17:00 ~		男子2回戦		会場: KEIOアリーナ東京	
	対戦カード	NEXT WOLVES(大分県)		VS	ISC PANTHERS(愛知県)	
	主審	CC	石川 淳也	U1	福田 尚広氏(島根県)	U2 榎原 拓司氏(東京都)
	講師／主任	加藤 暁生様(JBAU15担当・本大会審判副委員長・東京都)				
	講評	<p>・両チームの力関係やゲームフローをふまえたうえでの判定をクルーで積み重ねることができたことが良かった。判定に大きな問題はなかったように感じる</p> <p>・ゲーム序盤から本当に必要な笛だけが入り、概ねプライマリレフェリーからコールされていたのも良かった。テンポセットとして両チームにメッセージが伝わったことがスムーズなゲーム運営につながったと感じる。</p> <p>・あえていえば、いかにファウルコールを削れてナチュラルインターバルの時間を増やせるか、その観点からみると4Qは少し細かいコールもあったと感じる。ゲームレベルが高くなったり、カテゴリーが違うゲームになるとファウルorマージナルの精査は今後必要かと思われる。</p> <p>・クルーワークの面でも、チェックイン・チェックアウトの部分ははっきりさせてほしいケースがあった。最終的に判定にはつなげているが、判定の遅れやセカンダリが判定していた。</p>				
	自己の感想	<p>・両チームともトランジションゲームを得意としているので、早くポジションに入ってイリーガルコンタクトは逃さずファウルコール積み重ねることをこのゲームのテーマにして、メカニクス・プレーコーリング・ポジションアジャストに重点をおいてPGCを行った。クルーのお二人に情報をいただきながらチームのスカウティングを行い、チームのキープレイヤー・プレースタイル等のチーム情報も共有して試合に臨むことができた。</p>				

令和8年1月6日 (火) 9:30 ~		女子3回戦		会場: KEIOアリーナ東京	
対戦カード	京都精華学園中(京都府)		VS	ONE(静岡県)	
主審	CC	白川 直弘氏(石川県)	U1	石川 淳也	U2 大村谷 菜々氏(鹿児島県)
講師／主任	蒲 健一様(前JBAU15担当・東京都)				
講評	<p>・前半からONEが大きくリードして、京都精華学園中の連覇・公式戦無敗の歴史が変わる可能性が高まるゲームとなったが、クルーで落ち着いて判定を積み重ねていた。延長戦にもつれ観客・役員の多くが注目するゲームの中、クルーワークがとても良く、無事にゲームを終えたことがとても良かった。判定についても特に大きな問題はなかったように感じる。</p> <p>・ゲーム序盤から本当に必要な笛だけが入り、概ねプライマリレフェリーからコールされていたのも良かった。テンポセツとして両チームにメッセージが伝わったことがスムーズなゲーム運営につながったと感じる。</p> <p>・試合が終盤を迎える中で、京都精華学園中の留学生に対するONEの守り方は整理が必要ではないか。セカンダリレフェリーがケイデンスで判定したケースが4Qに1つあった。やはりプライマリレフェリーが判定して、留学生のフラストレーションをためさせないようにすることがゲームコントロールにもつながる。</p>				
自己の感想	<p>・ゲーム展開もめまぐるしく変わり、留学生のいるチームということもあり、特にプレーコーリングの面で、シリンダー・リーガルガーディングポジションを根拠に、コールorマージナルorノーコールの区別を明確にすること、SAME CALLをクルーで実践することを中心にPGCで確認してゲームに臨むことができた。</p> <p>・判定に関しては概ねプライマリレフェリーが判定してPGCで確認した内容もクルーとして概ねできたと感じる。ゲームも緊迫した状況の中、大きなトラブルなくゲームを終了することができたことは良かったと思います。</p> <p>・ゲームフローに沿った判定が反省点であった。上記のケースは私がプライマリであり、それまでは京都精華学園中の留学生をうまくONEが守っていて、声をかけてクリーンな守り方をさせようとしたが、ゲームも緊迫した状況でコールを入れるべきであった。ゲームフローを読み取り、判定をすることの大切さを痛感したケースであった。今後実践していきたい。</p> <p>・本大会を通じて、改めてベーシックの理解と徹底が必要だと感じました。日頃から頭では理解してもオンザコートで適切に適用できるように、今後も「TRY & ERRORで身につけること」を意識して、今後の審判活動に真摯に取り組み、研鑽を積んでいきたいと思っています。</p> <p>・本大会で自分の力量やCCとしてクルーの力量を発揮できることはある程度できたことは大きな収穫でした。ただ、「ゲーム終盤での対応」や「バイシエント・ホイッスル」については課題も残りました。これは私の課題でもある「ゲームコントロール」に直結しています。今後の審判活動の中で課題克服に取り組んでいきます。</p> <p>・本大会開催にあたり、JBAU15担当加藤様・東條様、本大会担当講師のみなさま、開催地東京都のみなさまには、ご準備から研修会・本大会の運営と本当にお世話になり、ありがとうございました。また、本大会は初めての派遣でしたが、全国のみなさまとお会いして交流できたことや本大会の審判を担当することができ、新たな発見・学びの場となりました。改めて感謝申し上げます。</p> <p>・派遣に関してご高配を賜り、貴重な経験をさせていただきましたことを、細見委員長をはじめ、大阪府協会審判委員会のみなさまに改めて感謝申し上げます。</p> <p>・今回は、2027年度の「大阪全中」開催が決定しており、視察も兼ねて参加させていただきました。本大会の運営はもちろんのこと、今後の講習会や大会運営についてJBAU15担当加藤様・東條様と情報交流を行い、今後の取り組みの流れをイメージすることができました。</p> <p>・大阪全中開催に向けて、U15部会審判委員会に情報共有して、役割分担をしながらU15部会審判委員会が主体となって準備を進めてまいります。協会役員のみなさま、協会審判委員会のみなさまのご協力をお願いすることもありますが、大阪全中に向けてご尽力を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>・最後になりますが、この貴重な経験を今後の審判活動に生かし、真摯に審判活動に取り組んでいきます。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。</p>				

京 王 Jr. ウ ィ ン タ ー カ ッ プ 2025 - 26
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	京王 Jr.ウィンターカップ 2025 - 26						
●日程	令和8年1月4日 (日) ~			令和8年1月6日 (火)			
●会場	京王アリーナTOKYO						
●スケジュール	令和8年1月4日 (日)						
●担当試合	8:30 実技開始						
	令和8年1月4日 (金) 8:30 ~						
	対戦カード	G-style			VS		高川学園中学校
	主審	OC	久里 亜紀氏	U1	佐藤 俊太郎氏	U2	平野 智也
	講師／主任	関谷 洋平氏					
	講評	○テンポセット ブルカンで話をしていた手の使い方、体の寄せ方、ペイントエリア内をクリーンにすることをテンポセットしてしていた中で、それぞれのプライマリでコールができていたこと、セიმコールが判定できていた。 ○ローテーション ○サイド、ハーフラインのコフィンコーナーあたりでトラップなどが起きた際にダブルトレイルが起き、その時にリードが素早くローテーションできたケースもあったが、できていないケースもあったのでそのあたりうまくローテーション出来るとよい。 ○試合全体を通して 後半少し笛の数が減ったように感じた。リーガルなのかイリーガルなのかを見ることが必要だと感じた。					
自己の感想	今大会自体のオープニングゲームということもあり、会場の雰囲気、チームの緊張感を感じながらゲームに入った。試合全体を通して、講師の方がおっしゃっていた通りテンポセットの部分で手の使い方など、明らかなものを判定していくことを積み重ね、試合自体は良い雰囲気でゲームを終えることができた。 ですが、自分自身の中でも自分のプライマリで何が起きそうでどのようなマッチアップがあるなどその予測をしていくことが自身の課題だと感じた。良い判定につなげるため、ポジションアジャストをよい形でしていけるよう組んでいきたいと感じた。						

●スケジュール	令和8年1月5日(月)					
	14:00 実技開始					
●担当試合	対戦カード	RISINGS徳島		VS		ゴッドドア
	主審	OC	加藤 暁夫 氏	U1	遠田 亘 氏	U2 平野 智也
	講師／主任	なし				
	講評	なし				
	自己の感想	<p>○クルーチーフからの反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて吹くクルーの中で、アイコンタクトをしながらやろう。 例:ローテーションのタイミング、それぞれのコールの後、何かアクションがあるとき、などそうした中で、良いクルーワークだったので良かった。 ・○サイドでプレーが起きそうなときの積極的なローテーションが良かった。 ・ターンオーバーが起きた際に、プライマリーの判定でUFに1発で判定できるとなお良かった。(決断力) <p>○個人の感想</p> <p>ゲームレベルも大きく上がり、会場も注目するカードの試合であった。ゲームに入る前のプレゲーム・カンファレンスにてトレイルのポジションアジャストを自己の課題と話し、クルーで共通認識でトレイルの動きを実践した。自分自身、実践してみた結果少しボールをウォッチャー気味になってしまうケースがあったが今までのゲームより判定が下しやすくなったように感じた。</p> <p>また、クルーチーフからの反省であった通り、UFに自ら持っていく決断力、ルールの理解などその部分を今後にかいてやっていきたい。</p> <p>ですが、ゲームレベルが高い中でもプライマリーでの判定を積極的にできた。ポジションアジャストするためにもメカニクスの理解などが非常に大切であるということを感じれた。</p>				

●スケジュール	令和8年1月6日(火)					
	12:30 実技開始					
●担当試合	対戦カード	NOSHIRO BASKETBALL ACADEMY		VS	金沢学院大学附属中	
	主審	OC	草野 伸明 氏	U1	山本 海士 氏	U2 平野 智也
	講師/主任	二宮 光司 氏				
	講評	<p>○クルーワーク 判定の一貫性がありよかった。セიმコールがありゲームコントロールができていた。</p> <p>○スピードアジャスター タイムアウトやクォーター間などの再開を早くさせる声掛けなどが良かった。ですが、フリースローの際にリバウンドの選手が並ぶ前に始めてしまっていた。</p> <p>○ボールウォッチャーになっている。 個人としての講評。</p>				
	自己の感想	<p>準々決勝をかけたゲームということもあり、選手たちはよりハードになり体の寄せや勝負所でのプレーに目をあてることを考えながらゲームに向かい準備した。</p> <p>テンポセットの中で、プレーがハードになりすぎ影響が大きく出た際には笛を入れ、マーシナルで鳴らさないでプレーさせたときの同じ判定基準を合わせクルーで共通認識を持つよう話ができたととても良かった。共通認識を持った中で、自己の課題でポジションアジャストをしていく中でボールウォッチャーになってしまっている自分のプライマリの把握やメカニクスの確認をすることが大切だと感じた。</p> <p>プレーを再開させる時のすべての準備ができているかをもう一度確認することでよりゲームをスムーズに進めることができると改めて感じた。</p> <p>派遣に関しまして、Jr.ウインターカップへの派遣という貴重な経験をさせていただき、細見委員長をはじめ、大阪府協会審判委員会の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>最後になりますが、Jr.ウインターカップという全国から強豪が集まる大会に審判員として参加できたことをとても嬉しく思い、今後の自己の審判技術の向上と審判活動に大きな影響を与える大会でありました。この経験を活かし今後も積極的に活動をしていきたいと考えております。今後ご指導のほどよろしくお願いします。</p> <p>派遣させていただき、本当にありがとうございました。</p>				

京 王 Jr. ウ ィ ン タ ー カ ッ プ 2025 - 26
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	京王 Jrウインターカップ 2025 - 2026				
●日程	令和8年1月4日 (日) ~ 令和8年1月8日 (木)				
●会場	京王アリーナTOKYO				
●スケジュール	令和8年1月4日 (日)				
	12:30 実技開始				
●担当試合	令和8年1月4日 (日) 12:30 ~				
	対戦カード	七尾DACKS(石川)		VS PIRATES U15 Fighting Rabbit(奈良)	
	主審(CC)	山本 海土氏	副審(U1)	江上 寛洋氏 (U2)	山口 翔
	講師／主任	加藤 暁生様			
	講評	<p><u>・手の使い方</u> もっと笛を入れても良かったのではないかな。</p> <p><u>・声の使い方</u> 本人に伝えるのか、全体に伝えるのかどっちが効果的であるかをもっと考える必要がある。体を使いながらわかりやすく伝える工夫があってもいいのではないかな。</p> <p><u>・タイムアウト中のクルーでのコミュニケーション</u> 個人で気になっていることがあったら、クルーの中で共有すべき。 コミュニケーションではより具体的なものを議題に挙げる。</p> <p>例) 「ストロングサイドのエルボーからのミドルショットのケースTからちょっと見にくいと感じた」 ↓ 「じゃあそのプレーはCの方がアングル取れてるからCが見よう、その時リバウンドT・Lでよろしくね」</p> <p><試合全体を通して> 両チーム特にストレスを感じることはなく、スムーズに試合を運営できたことは良かった。</p>			
	自己の感想	<p>試合全体を通して、延長戦にまでもつれる試合でしたが、良い雰囲気ゲームを終えることができ良かった。</p> <p>講師の方にもおっしゃっていただいたが、手の使い方の部分でもっと笛を入れるべきシチュエーションがあった。特にテンポセットの部分で積極的にコールをするべきだった。手の使い方が悪いという気づきがあり感じることができていなかった。</p> <p>自分のプライマリの選手を長く見ることが、プレイヤーがどうやって守るのか、何を</p>			

	狙っているのかを感じ取ることに繋がっていくのだと改めて思った。 後半にかけて良い判定ができるようになったと感じている。 ローテーションに関して、1Qから積極的に行うことができた。
--	---

大阪府社会人連盟審判員

山口 翔

●スケジュール	令和8年1月5日 (月)					
	15:00 実技開始					
●担当試合	令和8年1月5日 (月) 15:30 ~					
	対戦カード	四日市メリノール学院中学校		VS	越谷アルファーズU15	
	主審(CC)	東條輝正氏	副審(U1)	山口 翔	(U2)	小椋 哉斗氏
	講師／主任	なし				
	講評	なし				
	自己の感想	<p>・クルーチーフからの反省 4Qのセンタープライマリーからのドライブで最後ヘルプディフェンスでコールしたケースはよく決断してくれたと思う。コール、ノーコールどちらでもクレームが出るケースだが、点差やゲームフローを考えられていればより良かった。 ローテーションの部分でクルーを急がせてしまったことがあった。クルーがどこを見ているのかまで考えてローテーションを判断するべきだった。</p> <p>・個人の感想 試合の出だしの部分で、ゲームに乗り切れなかった。後半に向けて自分が思ったものにコールを入れることができた。 C側の高めのマッチアップに対して、Tがそれに視野を向けていたが、ローテーションをしてしまうことによって、向けている視野を切らせる結果になった。クルーがどこを見ているのかも含めてローテーションを判断する必要があった。 両チーム高身長で、スピードもあり、タフなゲームだった。フィジカルコンタクトに対しては、高いレベルでの見極めが必要であると感じた。中学生とは到底思えないようなプレーばかりで圧倒された。このようなレベルの高いゲームでいかにベーシックなメカニクスを実践できるかが、非常に大切であることを知ることができた。</p>				

大阪府社会人連盟審判員

山口 翔

●スケジュール	令和8年1月6日 (火)					
	17:00 実技開始					
●担当試合	令和8年1月6日 (火) 17:00 ~					
	対戦カード	ゴッドア		VS	立川ダイスU15	
	主審(CC)	砂川卓嗣氏	副審(U1)	増田尚大氏	(U2)	山口 翔
	講師／主任	なし				
	講評	なし				
	自己の感想	<p>・クルーチーフからの反省 一つ一つの判定に自信があって良かったと思う。 上級になるためには、判定するためにその背景まで考えて判定することが必要になる。プレイヤーの感情だったりを理解して判定に繋げるともっと良いコールにつながる。 プライマリーの精度を上げることがクルーワークの土台になるため、精度を上げてほしい。 厳しい部分でいかに自分のメンタルをプラスに持っていけるかが大切。苦しい時こそ目の前のことをコツコツとやっていく必要がある。</p>				

・個人の感想

男子準々決勝ということで、かなり白熱した試合で、延長戦にもつれ込む試合であった。2日目よりもレベルが一段と上がっている印象を受けた。レベルの高い試合でいかに自分のプライマリを高い精度を持って判定できるかが肝であったが、思うような判定に繋がらず、メンタル的にも難しい部分があった。自分の大きな課題はメンタル面であると感じた。ビッグゲームに強いメンタルを作るためには、日頃からそのような姿勢を持って取り組む必要がある。今一度Basicなメカニクスの理解を深めていきたいと思う。

派遣に関しまして、社会人連盟であるにも関わらず、Jrウィンターへ派遣という貴重な経験をさせていただきましたこと細見委員長をはじめ、大阪府協会審判委員会の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

最後になりますが、非常にレベルの高いゲームを担当できたことは非常に嬉しく、感謝しかありません。しかしながら、自分の課題が多く見つかった大会でもありました。この経験を生かして次のステップに上がれるように継続して努力していきたいと思います。今後ご指導のほどよろしくお願いいたします。

本当にありがとうございました。